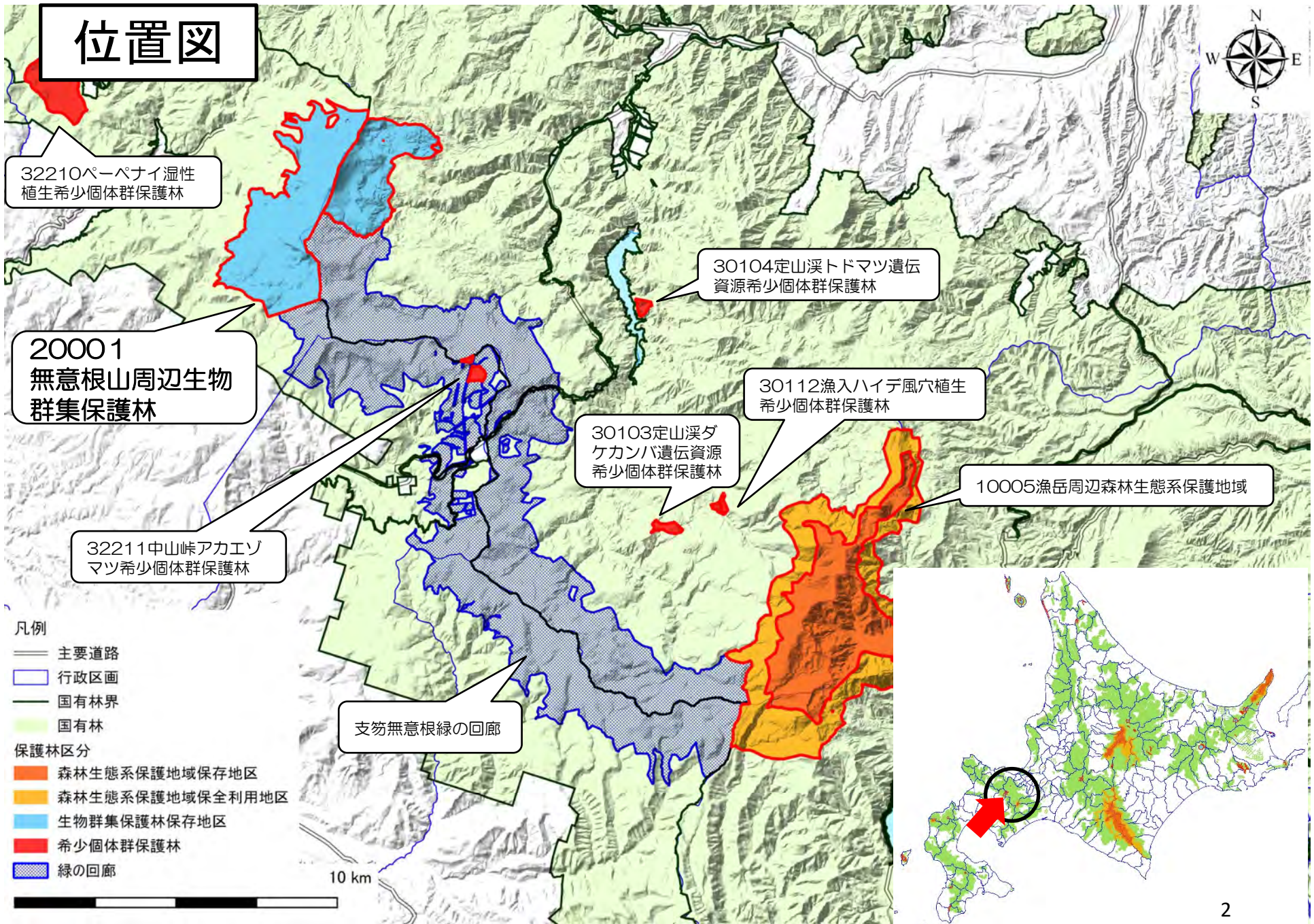


# 生物群集保護林の地帯区分の検討

## 令和2年度 地帯区分を検討する生物群集保護林

- 20001 無意根山周辺生物群集保護林
- 20012 別寒辺牛生物群集保護林
- 20013 雄阿寒岳生物群集保護林

# 位置図



32210ペーパーナイ湿性  
植生希少個体群保護林

20001  
無意根山周辺生物  
群集保護林

32211中山峠アカエゾ  
マツ希少個体群保護林

30104定山溪トドマツ遺伝  
資源希少個体群保護林

30112漁入ハイデ風穴植生  
希少個体群保護林

30103定山溪ダ  
ケカンバ遺伝資源  
希少個体群保護林

10005漁岳周辺森林生態系保護地域

支笏無意根緑の回廊

## 凡例

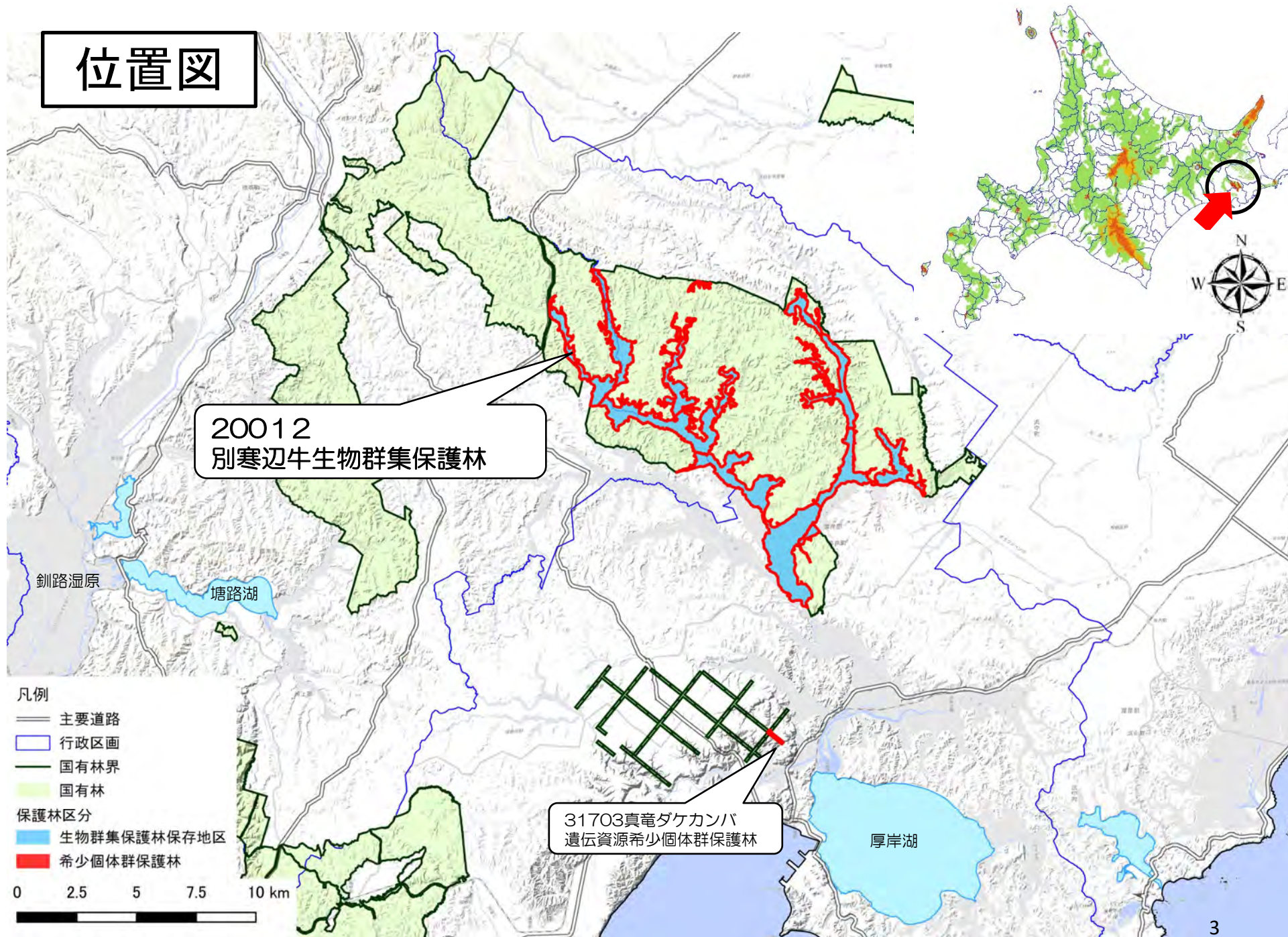
- 主要道路
- 行政区画
- 国有林界
- 国有林

## 保護林区分

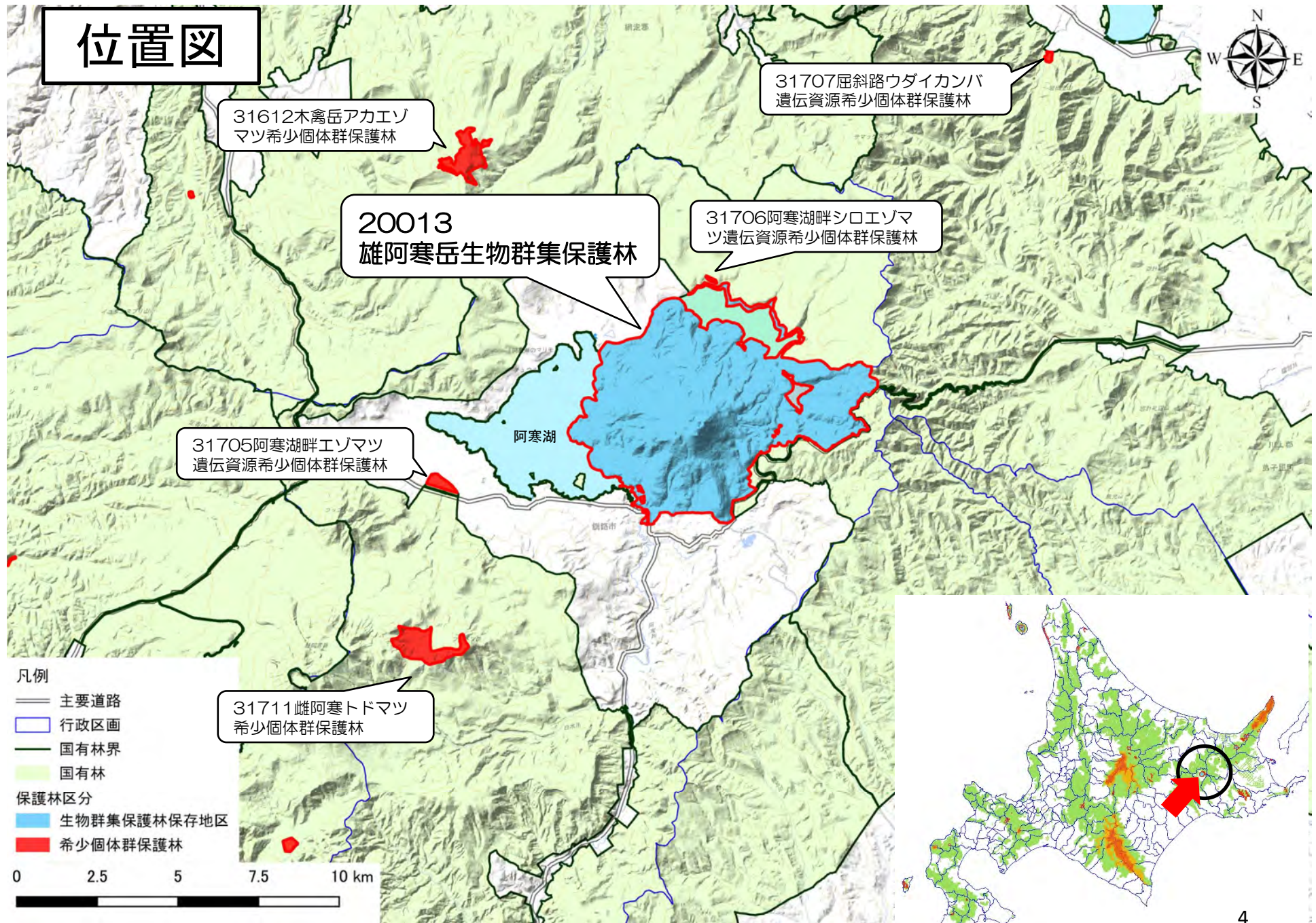
- 森林生態系保護地域保存地区
- 森林生態系保護地域保全利用地区
- 生物群集保護林保存地区
- 希少個体群保護林
- 緑の回廊

10 km

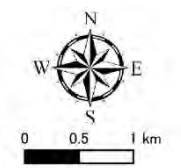
# 位置図



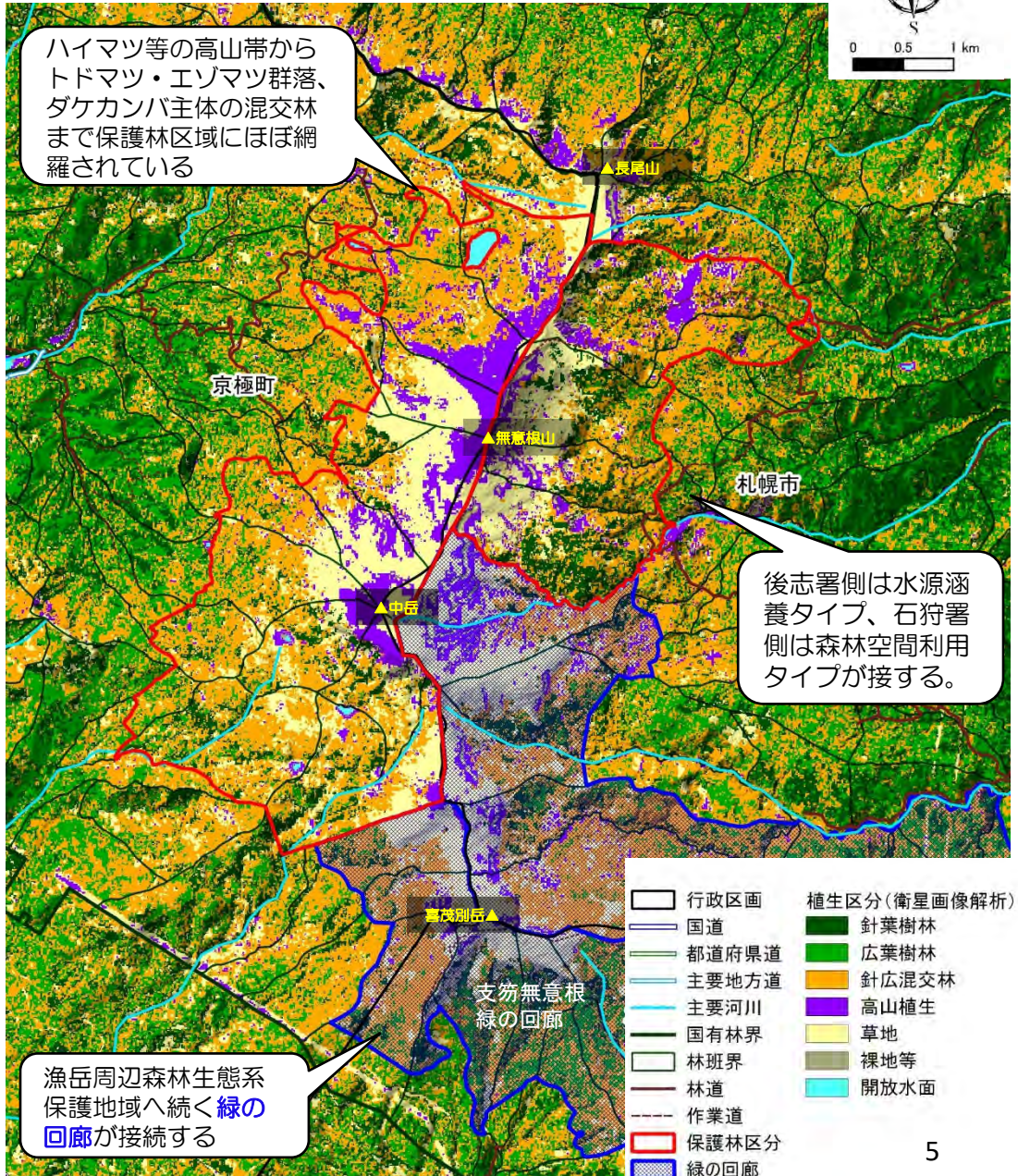
# 位置図



# 20001 無意根山周辺生物群集保護林 (2,047 ha)



<p>旧保護林設定目的と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標高1,000m～1,500mに位置し、北海道を代表するトドマツ、エゾマツ林からダケカンバ帯さらに高山帯 となってハイマツ帯へと垂直的に分布しており、今後の学術研究上の参考とするため、平成13(2001)年4月に「無意根山周辺植物群落保護林」として設定された。</li> <li>・京極地区に群生するエゾマツを保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とすることを目的として、昭和62(1987)年4月に「函館エゾマツ3林木遺伝資源保存林」として設定された。</li> </ul>
<p>保護対象と生息・生育区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象となる無意根山周辺地域の森林帯は、現在の保護林区域内に包括されている。</li> </ul>
<p>想定される影響等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護林の外周は全て天然生林および育成天然林に囲まれており、外接する天然生林では、原則、伐採を行わないことにより、環境の急激な変化による保護林及び保護対象への影響は想定されない。</li> <li>・保護対象の生育する区域は、保護林区域内にほぼ網羅されている。</li> <li>・無意根山を含む尾根筋の南側には、漁岳周辺森林生態系保護地域へ繋がる緑の回廊が接続する。</li> <li>・登山道によるレクリエーション利用がある。</li> </ul>
<p>地帯区分(案)</p>	<p>保全利用地区は設定しない。</p>



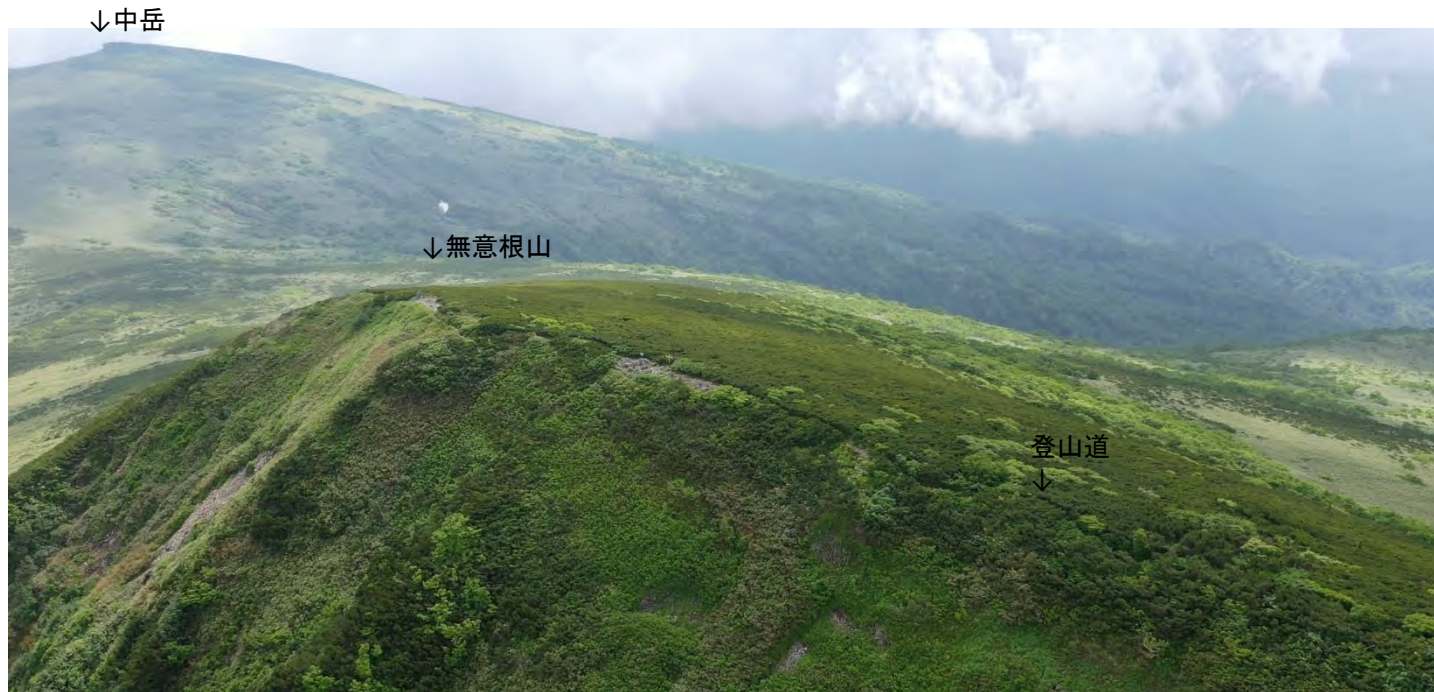
# 20001無意根山周辺生物群集保護林林況写真



無意根山山頂方向(石狩署管内よりドローンで撮影)



保護林北側の林況(登山道上よりドローンで撮影)



無意根山から中岳方向の高山植生(ハイマツとササ群落が続く)



トドマツ・エゾマツ針広混交林(石狩署管内)

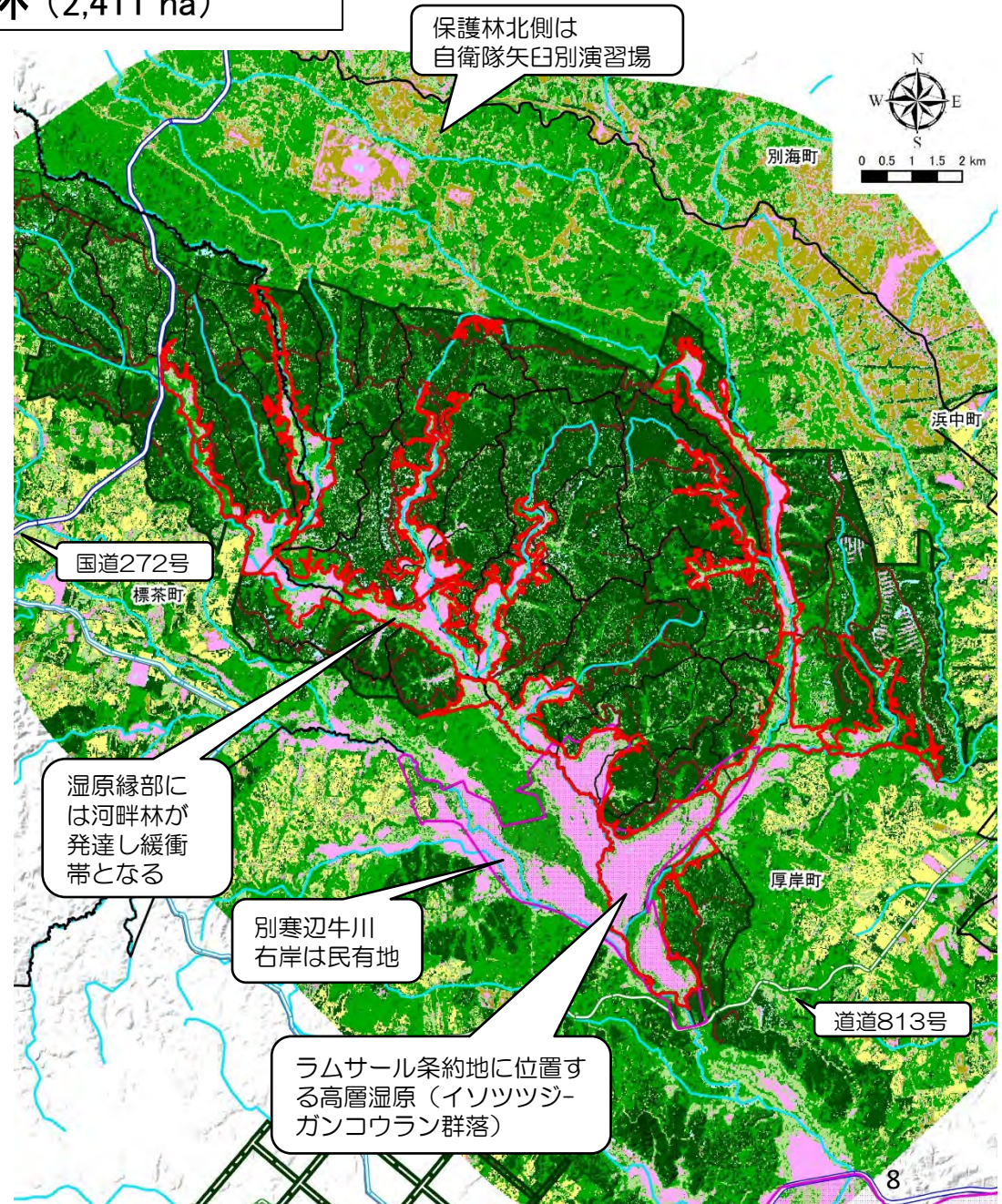


エゾマツ針広混交林(後志署管内)  
(旧函館エゾマツ3)



# 20012別寒辺牛生物群集保護林 (2,411 ha)

<p>旧保護林 設定目的 と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンチョウの繁殖地、生息地の保護を図り、併せて学術研究に資することを目的とし、平成5(1993)年4月に、「別寒辺牛タンチョウ生息地保護林」として設定された。</li> </ul>
<p>保護対象 と生息・生育 区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンチョウのほか湿地や湿原などに見られる地域固有の生物群集の全てが保護対象となる。</li> <li>・ラムサール条約地には、保護林の下流域の高層湿原のイソツツジ-ガンコウラン群落を含む区域にかかる。</li> <li>・タンチョウ調査では、巣立ち雛の目撃、ペア鳴き交わしや目視など、保護林内および周辺湿原での繁殖を確認した。</li> <li>・別寒辺牛川流域は、希少淡水魚の生息が確認されるほか、希少猛禽類の巣箱設置が行われている。</li> </ul>
<p>想定される 影響等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンチョウの繁殖環境に必要なヨシ-スゲ群落は保護林内に広く分布する。</li> <li>・保護林は湿原に設定されており、湿原縁ではハンノキやヤナギ林が見られ、湿原との緩衝帯となっている。</li> <li>・保護林周囲はカラマツ主体のパイロットフォレストで、今後施業計画があることから、施業に伴う土砂流出や枝条整理など適正に行う必要がある。</li> <li>・国有林内に希少淡水魚産卵床が見られるが、保護林外に位置している。</li> <li>・保護林内に入る釣人が多い。</li> </ul>
<p>地帯区分 (案)</p>	<p>保全利用地区は設定しない。</p>

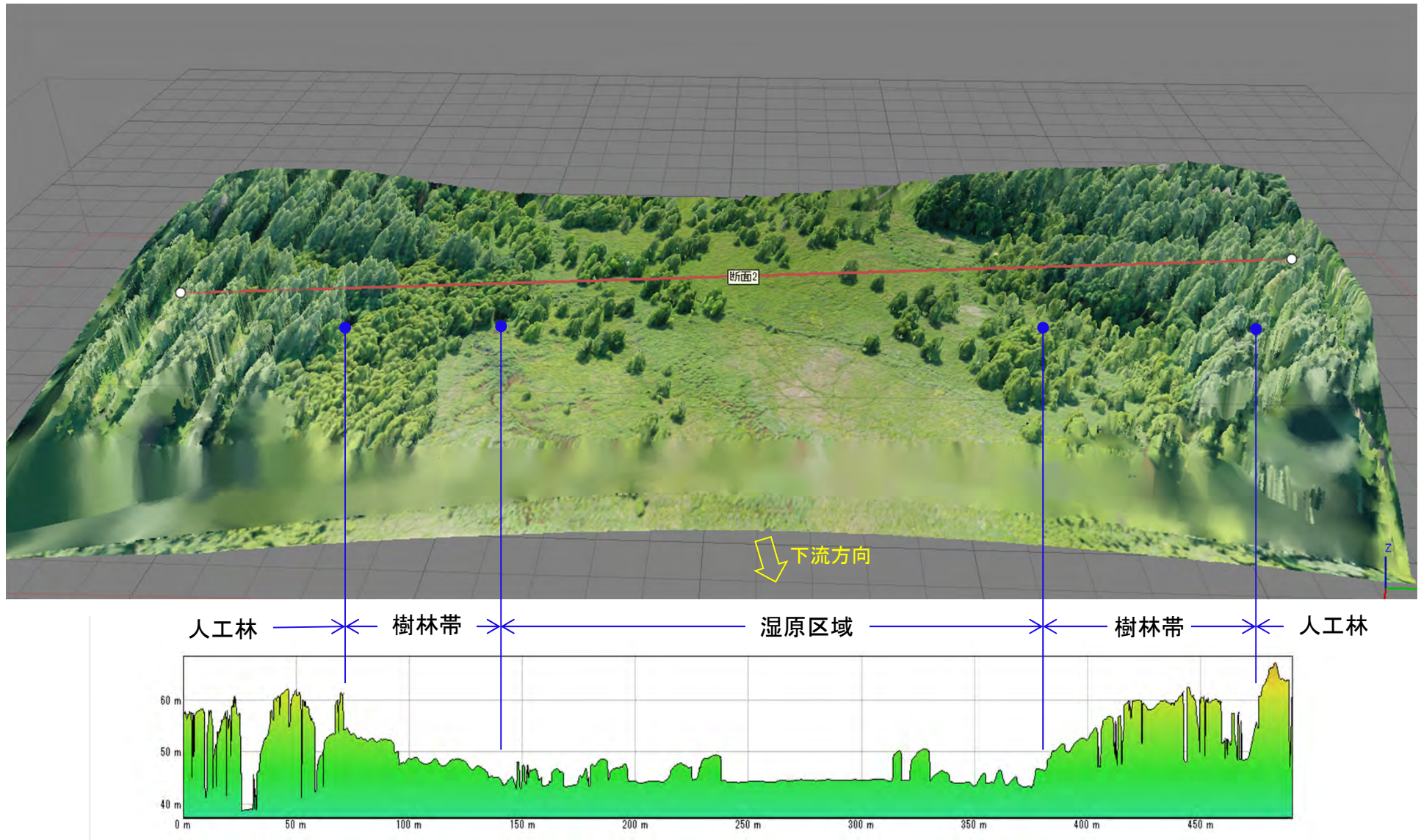


## 20012別寒辺牛生物群集保護林の林況



湿原内にはハンノキやヤナギが生育し、人工林とヨシ-スゲ群落との緩衝帯となる。

# 20012別寒辺牛生物群集保護林の林況



別寒辺牛湿原の樹林帯断面

# 20012別寒辺牛生物群集保護林の林況



## ラムサール条約地内の湿原



# 20012別寒辺牛生物群集保護林



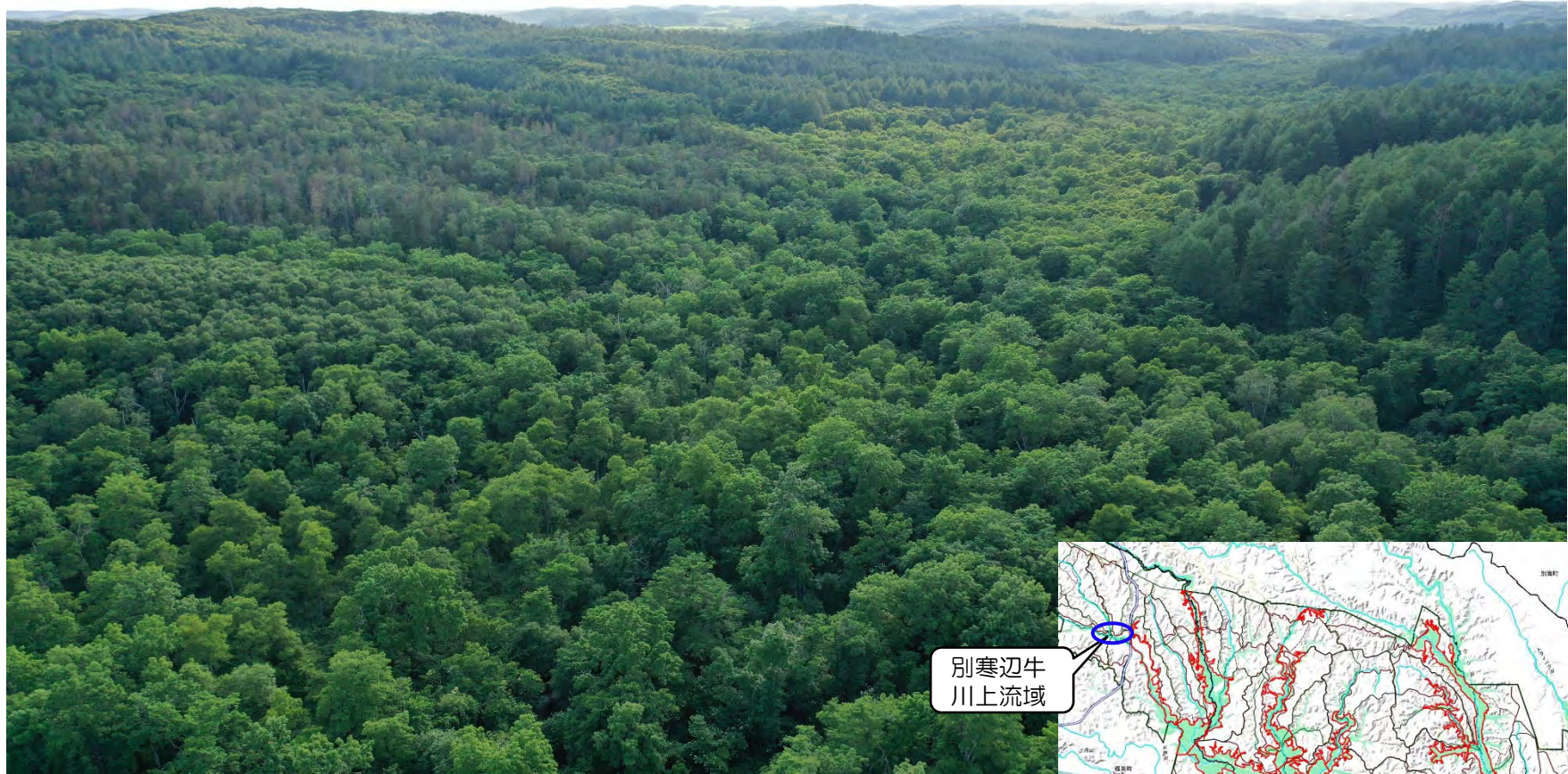
別寒辺牛湿原のタンチョウ(ドローンによる撮影(6月上旬))

# 20012別寒辺牛生物群集保護林

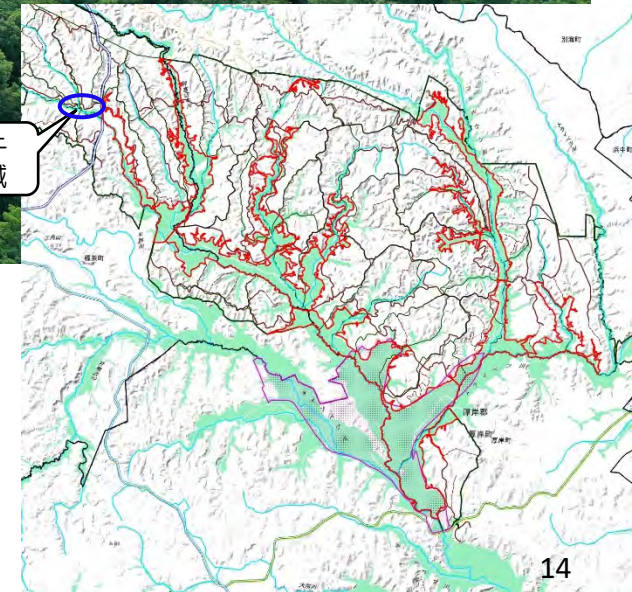


別寒辺牛湿原のタンチョウ(ドローンによる撮影(6月上旬))

## 20012別寒辺牛生物群集保護林

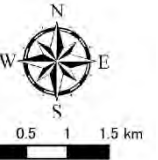
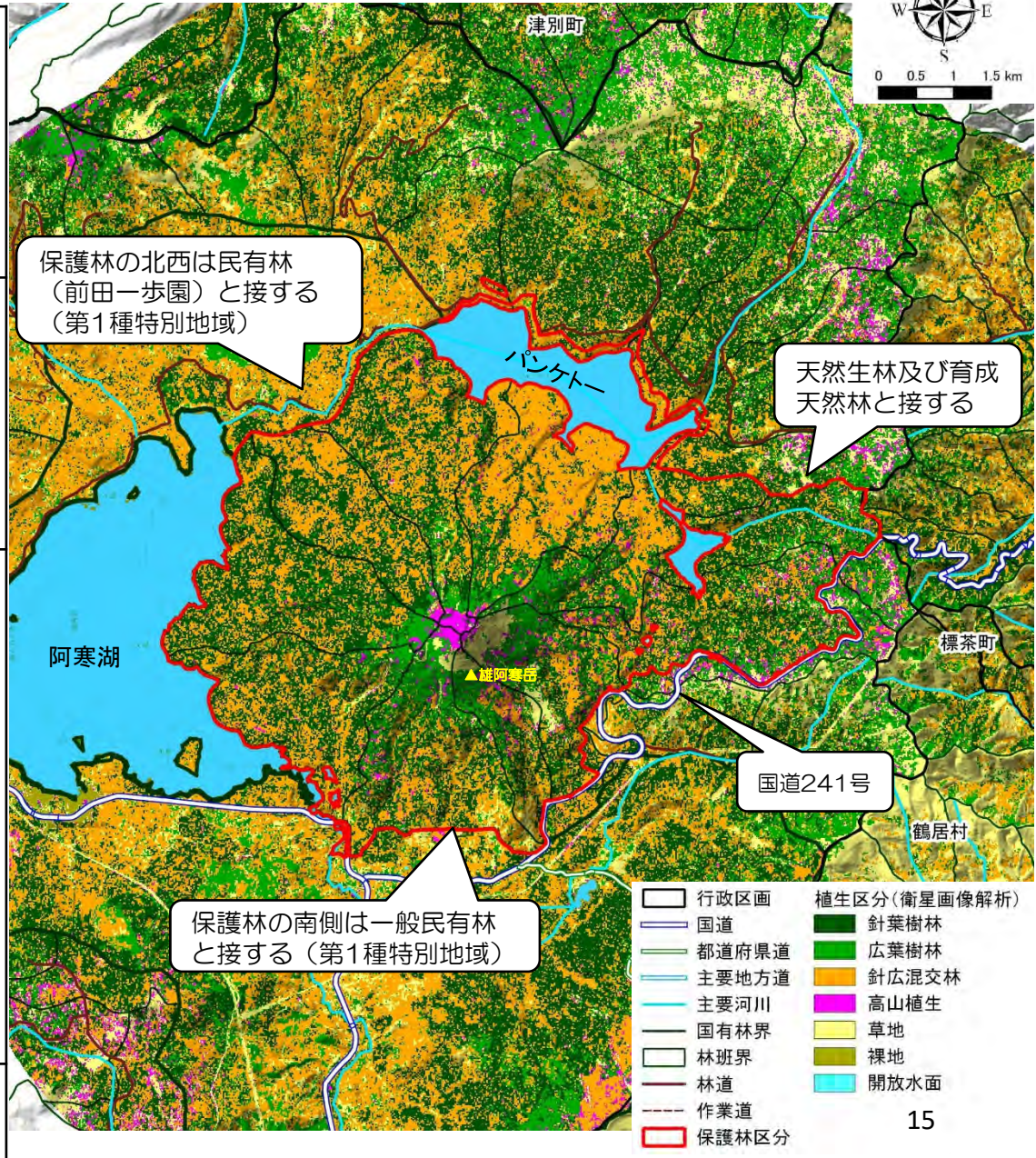


別寒辺牛川上流域の林況(保護林外)  
保護林内のような湿原性草本群落は見られない。



# 20013雄阿寒岳生物群集保護林 (3,758 ha)

<p>旧保護林 設定目的 と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿寒国立公園の指定(昭和9年)が早かったこともあり、過去に森林施業が行われた形跡も認められず良好な原生状態を維持している。このため、植物群落保護林に設定し、現況維持を目的とし、平成14(2002)年4月に「雄阿寒岳原生植物群落保護林」として設定された。</li> </ul>
<p>保護対象 と生息・生 育区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護対象は雄阿寒岳周辺地域の生物群集を有する森林であり、山頂部にはハイマツを主体とする高山植物が生育し、山麓一帯にはエゾマツ、アカエゾマツ、トドマツを主体とする原生的な針葉樹林が見られ、保護林区域内にはこれら植生が内包される。</li> </ul>
<p>想定される 影響等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護林のうち、南東区域を除き阿寒湖などの開放水面や民有地に接しており、保全利用区域を設定しがたい。</li> <li>・保護林の南西部縁は国道241号と接しており、国道を挟んで天然生林に接続する。</li> <li>・保護林は阿寒国立公園特別保護地区にほぼ内包されており、接する民有林は全て第1種特別地域に指定される。東部の国有林に接する箇所はいずれも天然生林、育成天然林に指定される。</li> <li>・国道241号沿いの道路敷は十分な敷地が確保されている。</li> </ul>
<p>地帯区分 (案)</p>	<p>保全利用地区は設定しない。</p>





20013 雄阿寒岳生物群集保護林 林況写真



雄阿寒岳とパンケトー周辺の天然林



パンケトー湖岸の林況

20013 雄阿寒岳生物群集保護林 林況写真



阿寒湖岸の保護林の林況(針広混交林)



阿寒湖岸の保護林の林況(溶岩上に樹林帯が成立する)

## 20013 雄阿寒岳生物群集保護林林況写真



パンケトー

保護林東部の針広混交林(天然生林および育成天然林)の林況

## 20013 雄阿寒岳生物群集保護林林況写真



国道241号から保護林までの状況



国道241号

国道241号から保護林までの状況(針広混交林)